

カンボジアでの経験

セカンドハンドユース

渡部夏香

私は今年からセカンドハンドのボランティアとしてセカンドハンドユースの活動を中心としてカンボジアに関わってきました。カンボジア渡航のお話をいただいた時には迷わず参加したいとお返事しました。それは自分の目でカンボジアの今の状況を見たかったからです。カンボジアの子どもたちの状況を知ったきっかけはテレビですが、それは一部にしかすぎず、いつの情報かも信用出来なかつたのでこの目で確かめたいと思い、カンボジアへ向かいました。

カンボジアではたくさんの刺激をうけました。その中でも今回はNGO「マリノール」での奨学生との交流とホームステイのことについて話します。「マリノール」にはセカンドハンドの支援者の方とユースが奨学金支援をしている中学生・高校生たちがいます。今回訪問した時には15人の学生たちが迎えてくれました。集まってくれた学生は、支援をうけて卒業した子、継続して支援をうけている子、今年度から支援をうける子などさまざまな思いをもって交流してくれたようです。

私はクメール語がわからず、奨学生たちも日本語がわからないので会話は英語でした。自己紹介ではみんな一生懸命に英語で伝えようしてくれました。しかし大学生で今まで英語の勉強をしてきたはずの自分が話すことも聞き取ることも満足に出来ないことが情けなく、日本から出たことで初めて英語を授業で習う意味を遅いですが知りました。

こんな始まりで夕方まで過ごせるのかと不安を抱えながらも、私が企画して準備してもらった材料でまずコーヒーゼリー作りをしました。初対面ですしあ慣れた言葉でもないのでお互いに首をかしげながらも、私の拙い英語やジェスチャーを必死に理解しようしてくれ手伝ってくれました。日本のような冷蔵庫はありませんでしたが、隣接する駄菓子屋さんのアイスクリームを入れるような冷凍庫の中に他の商品を避けて入れさせてもらいました。

コーヒーゼリーが固まるのを待っている間に、手形の作成をしました。これは日本のユースの手形とカンボジアの奨学生の手形を交換するというユースとしての企画です。今回は長袖の白いTシャツに手形を押してもらいました。私は手形・メッセージ・名前を入れて欲しいだけ伝えただけですが、奨学生たちはすぐに理解して順番に作成していき、空白には絵を加えるなど自分たちで考えて完成させてくれました。他にもマイムマイムを教えたり、逆に最近カンボジアで流行っている踊りを教えてもらったり、日本にいるユースとビデオ通話したりとたくさん交流しました。

夕方には最初の不安はもうなくとても充実していました。改めて振り返って多くの言葉を交わしたわけでもありませんが、たくさんの思いは伝わってきました。帰りに支援者の方やユース宛に手紙をたくさん預かりました。その中に『学校へ行くチャンスを与えてくれてありがとう』と書いてくれている子がいました。もしこの子たちが学校へ行けていなかつたら英語の単語ですら何かを伝えることができなかつたのです。日本でそこまで深く考え

ずに募金活動をして支援金を集めましたが、その募金で学校へ通えている子どもたちがたくさんいるのだとわかった瞬間に、本当に役に立てることが出来ているのだと感じました。

今回カンボジア渡航に参加させていただき、やはりいつか見たテレビの情報とは違う点がいくつもありました。都市の発展と田舎の状況は同じ国とは思えないほどのギャップがありました。だからといって教育をうけられる子どもと教育をうけられない子どもが出てきてはいないと思います。だから私はセカンドハンドやユースの活動を続けて教育に関しての支援をしていくと共に、もっと自分にできることを探していきたいと強く思いました。自分の考え方や物の見方が変わる刺激的な初めての海外経験でした。